

令和 6 年度文化庁委託事業
「地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会(九州地域)」開催要項

- 1 事業名 地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会(九州地域)」
- 2 趣 旨 劇場・音楽堂等の職員を対象として、施設の管理運営を行う上で直面している課題について専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
- 3 主 催 文化庁・公益社団法人 全国公立文化施設協会
- 4 開催日 令和6年9月19日(木)～9月20日(金)[2日間]
- 5 会 場 那覇市ぶんかテンプス館 テンプスホール
〒900-0013 沖縄県那覇市牧志 3 丁目 2 番 10 号
TEL 098-868-7810
- 6 日程及び内容 別紙のとおり
- 7 受講者 (1) 劇場・音楽堂等に勤務する職員(指定管理者及び劇場・音楽堂等の管理・運營業務等を受託している企業等からの派遣職員も含む)
(2) 地方自治体の文化芸術行政担当職員及び劇場・音楽堂等施設関係者
(3) 民間の舞台技術関係者、大学等の高等教育機関・舞台技術やアートマネジメントの教育関係者・学生等、また関心のある市民等
- 8 申込方法 参加申込書に必要事項をご記入の上、提出してください。
- 9 申込期日 令和6年8月31日(土)
- 10 連絡・問い合わせ先
公益財団法人宮崎県立芸術劇場 担当:総務課 宮崎
TEL:0985-28-3216 / FAX:0985-24-7676
E-mail:kyushushibu@miyazaki-ac.jp

「令和6年度文化庁委託事業
「地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会(九州地域)」開催要項
日程・内容

日 程: 令和6年9月19日(木)～9月20日(金)

会 場: 那覇市ぶんかテンプス館 4階 テンプスホール

日 時	科目	内 容	講 師	
9/19	12:30～ 13:00	受付	那覇市ぶんかテンプス館 4階 テンプスホール	
	13:00～ 13:10	開講式	部会長挨拶 開催館挨拶	
	13:10～ 14:20	講義	「文化施設の公共性と 文化的コモンズの形成」 ～多様な連携の形から考える～	兵庫県立芸術文化観光専門職大学 副学長 教授 藤野 一夫氏
	14:20～ 14:30		休憩	
	14:30～ 17:00	グループ ワーク	「連携企画をつくってみよう」 * グループワークに必要な詳細データ(架空の 地域の架空の施設)は、参加申し込みいた ただいた方に事前にお送りいたします。 * グループ分けは当日お知らせいたします。 * 休憩はグループ毎に適宜おとりください。	
9/20	9:10～ 9:20	受付		
	9:20～ 10:20	グループ ワーク	「連携企画をつくってみよう」 * 企画のまとめ	
	10:20～ 10:30		休憩	
	10:30～ 12:00	講評	グループワークの発表・質疑 講評	兵庫県立芸術文化観光専門職大学 副学長 教授 藤野一夫氏
	12:00～ 12:10	閉講式	部会長挨拶 次期開催館挨拶	

研修会テーマ 「これからの『連携』について考える Part 2」

～連携企画をつくってみよう～

昨年の研修会では、「文化施設同士の連携」「地域住民との連携」「他分野との連携」の事例発表をとおして、連携の可能性について考えてみました。

今年の研修会では、参加者の皆さんにいくつかのグループに分かれていただき、実際に連携企画を立案してみるグループワークを行います。

様々な連携の形を紐解いていくために、昨年に引き続き、兵庫県立芸術文化観光専門職大学副学長の藤野一夫氏にコーディネーターを務めていただきます。

「何のために」「誰と」「どのようにつながるか」

公立文化施設が地域の文化の拠点としての役割を果たしていくために、「連携」の重要性はますます高まってきています。しかし、一言で「連携」と言ってもいろいろな形がありますよね。

皆さん、事業企画を考える際に一人で頭を悩ませていませんか？ やりたい事があってもうまくいかずに諦めていませんか？ 九州各地の色々な施設が集まっているこの研修会だからこそ、参加者同士で話していく中で、新たな発見があるかもしれません。

「これってホントに実現できるかな？」「企画立案初心者なんだけど」「こんな企画、上司に怒られるかな？」

そんな心配はいりません。皆さんの自由な発想で、思いっきり素敵な企画を一緒に考えてみましょう！ そして、この機会がそれぞれの施設運営のヒントになれば、と思います。

* 企画立案の前提となる、地域及び施設の詳細データにつきましては、参加申し込みをいただいた方に、後日お送りいたします。

【コーディネーター メッセージ】

昨年は「連携共同体の形成から考える公立文化施設の公共性」をテーマに、主に理論的なお話しをしました。基調講演に続いて、連携やネットワークについての興味深い事例紹介がありました。連携には「公立ホール同士の連携」「住民との連携」「他分野との連携」など、多様な連携の形があります。しかし、それぞれのホールや地域の実情に応じて連携の形を模索したいけれどもうまく形にできていない、という悩みもあるでしょう。

今年は、昨年のテーマをさらに深掘りして考えてみたいと思います。みなさんが「連携企画」を具体的に考える際のヒントになれば幸いです。

コーディネーター プロフィール

【藤野 一夫】

1958年東京生まれ。兵庫県立芸術文化観光専門職大学副学長。神戸大学名誉教授。

日本文化政策学会副会長、(公財)びわ湖芸術文化財団理事、(公財)神戸市民文化振興財団理事ほか、文化審議会等の委員を多数兼任。著書に『みんなの文化政策講義 文化的コモンズをつくるために』(水曜社)、編著に『公共文化施設の公共性—運営・連携・哲学』、『基礎自治体の文化政策—まちにアートが必要なわけ』(以上水曜社) 『地域主権の国 ドイツの文化政策—人格の自由な発展と地方創生のために』(美学出版) 『ワーグナー事典』(東京書籍)、ワーグナー『友人たちへの伝言』(共訳、法政大学出版会)など。